

平成28年第2回

仙南地域広域行政事務組合  
教育委員会定例会会議録

平成28年5月30日開議

平成28年第2回仙南地域広域行政事務組合教育委員会会議録

1. 召集日時 平成28年5月30日（月） 午後3時00分
2. 召集場所 仙南芸術文化センター 会議室
3. 出席委員 教育長 佐藤隆夫, 委員 川島陽子, 委員 佐山富夫,  
委員 佐藤茂廣, 委員 佐藤芙貴子

4. 説明のため出席した者

教育次長兼仙南芸術文化センター館長 水戸雅彦  
主幹兼教育係長兼文化振興係長 黒澤良  
仙南芸術文化センター主事 星井理賢, 仙南芸術文化センター主事 若林あい子

5. 開 会 午後3時00分

6. 平成28年第1回教育委員会定例会会議録の承認について

佐藤教育長	会議録について承認を求めます。
( 質 疑 )	<ありません>との声
佐藤教育長	質疑ないものと認め、会議録を承認します。

7. 会議録署名委員の指名

佐藤教育長	私のほか、川島陽子委員にお願いいたします。
川島委員	はい。

8. 諸報告

報告第1号 平成27年度視聴覚教育事業の実施状況について

黒澤主幹より教育委員会要覧（16～29頁）にてご説明申し上げます。当該年度では、初めての取り組みとして、住民の細かな要望に応えられる出前講座や、入場者と事業の充実を図るためかえっこプログラムを導入した新・視聴覚教材センターフェスティバル、視聴覚教材の利用促進を図るため開催時期をずらした学校教育・社会教育専門部会がある。その他、振興発展に資する事業としては、AZ9ジュニア・アクターズの入団者を増やす仕掛けとして、新たにAZ9ワークショップ事業を開催した。

( 質 疑 )	
佐藤教育長	プレゼンテーション講座というのはどんなものですか。
黒澤主幹	プレゼンテーション講座というのは、マイクロソフトという会社のパワーポイントというソフトを使いまして、発表のためのものを作るソフトの講座です。何かと発表する機会が多くなってきているので、そちらの方に向けての講座になっております。
佐藤教育長	15名のうちの中身の方はどんな方々ですか。
黒澤主幹	中身の方は高齢者の方が多いです。なかなかやっぱりうちの方で日曜日実施となりまして、受けられる方は年齢が高い方の方が多くなっております。
佐藤教育長	(出前講座) このプレゼンテーション講座はどんな内容ですか。
黒澤主幹	そうですね。こちらは直接出向いてですね、川崎町さんで行いましたけども、受講者の方に来ていただきまして、これは夜間だったんですが、夜間に時間をとって二日間来ていただきまして、受けていただきました。

佐山委員	(自作視聴覚教材発表会) この中身というのは、見ると歴史的なものが多いんですけども、参加作品の中には、他に何か種類の違ったものってのはあるんですか。
黒澤主幹	これが全てなんです。6作品ということで。どうしても地元が題材になった作品が多ございまして、それに関係するものが多いんですけども。
佐山委員	学校の教材のようなもので開発したものも出せるんですか。
黒澤主幹	それは過去にもありまして、今回お一方、白石歴史探検マップ、平間晃先生がお作りになった、こちらはパソコンで見られるソフトでございまして、授業で使えるような形で作っていただきました。
佐山委員	算数とか理科とか。
黒澤主幹	そうですね、今便利な時代でございまして、NHKさんでそういうの作ってるんですね。インターネットに繋がった状態で、NHK for Schoolと言いますが、NHKさんのサイトに繋がりますと、短い教材がいくらかでも取れる。それも学習指導要領にあった教材が並んでいるような状況でございまして。
川島委員	出前講座のところで、これは各地区で呼びかけるのが先で、それに対してこちらが出かけるんですか。
黒澤主幹	それもございまして、うちの方で現場訪問で要望を聞いて、それに対する答えとして、こういうのもできますよと提案型としてもやっています。
川島先生	そうですね。だいたい人数が8名とか5、6名とか。これはやるものとして現場で集めてる。
黒澤主幹	そうですね。一応うちの方の自前のパソコンが8台なものですから、それで一応8名。あとはお持ちになっているパソコンも含めて、ちょっと一人で対応するのが12名くらいがやっぱり最高なので、それでちょっと人数的にはその辺で抑えられているような感じになります。あんまり多いとやっぱり分けていただいとということになります。
佐藤(茂)委員	御礼です。自作視聴覚教材ですか、今年度ですね、永野小で作った鈴木さん、真田喜平太関係のスライド、町おこしですごく貢献してもらってます。実は今、真田幸村がテレビでやっていて、我が町は4月始めから6月末頃まで、今年で4回目になるんですけども、真田幸村展を特別展としてやっているわけです。ここの3分の2くらいの広さの部屋で、その入口に鈴木さんが作ったこの真田関係のスライドを、担当が朝8時半から始めて、何回もくり返し5時15分まで上映しています。来た人がその前に立ち止まって見てるんです。そういう意味では、町の取り組みに応援してもらってるなと思っています。
黒澤主幹	今度全国の方にも出されるので。
佐藤教育長	全国大会で最優秀賞を取ると。
黒澤主幹	はい。よりPRできると思うので。
佐藤教育長	専門部会とかでも3月にも選んでいるんですよ。今までにないような斬新な取り組みと言いますか。2回開いて、その教材買った頃は次の年度の間近になってしまったということがあったんじゃないかなと思うんですけども、そういうことを避けるために前の年に選んで、次の予算がついたときに利用してもらおうというのが新しい試みで。
黒澤主幹	選定していただいた部員の先生方には、一回は見てくださいということをお願いはしてあります。

佐藤(茂)委員	(AZ9パスポート) 相互利用施設と相互利用以外の施設というのがありますよね。具体的にはどういうことだったんですか。
黒澤主幹	相互利用施設というのは、他の6圏域で発行しているパスポートでも無料や割引でお互いに利用できる施設で、相互利用以外の施設というのは、仙南地域の子どもたちだけがAZ9パスポートを使って、無料や割引で利用できる施設のことです。
佐藤教育長	(AZ9ジュニア・アクターズ公演実績) AZ9の入場者数は26年度から比べると、増えてるんですか。
黒澤主幹	増えてますね。1,000名ぐらいだったのが、昨年度は1,174名ということで。天気ももちろん関係するんですが、大雪降ったときからいろいろありまして、昨年度は天候も良かったものですから。
佐藤教育長	それでは質疑ないものと認め、報告第1号を承認します。

## 報告第2号 平成27年視聴覚教材等の利用状況について

黒澤主幹より教育委員会要覧(10～15頁)にてご説明申し上げます。視聴覚教材については全体的に利用回数、視聴者数共に減少しており、視聴覚機材においてもほとんどの機材で利用が減少している。

( 質 疑 )	
佐山委員	私、角田市図書館のときにですね、ビデオテープの劣化がひどくて、それでDVDに全部切り替えようということになり、私たちの考えだけでやってしまったら、視聴者から「ビデオテープどこさ行ったの」って言われてクレームついたんですよ。主流はもうDVDですよ、パソコンのデータとかなんかにね。それをやはり切り替えていくべきだとも思うし、切り替えるときに、2、3年前から、市民の皆さんに、こういう理由で切り替えていきますよということを説明しないと、あとでクレームついたりして、困ったことあったんですよ。DVDに移し替えられた作品があればいいんですけども、ないのもあって困ってしまっ。もう捨てましたと言ったら、怒られたことがあったんです。主流はDVDにこれから変わっていくんで、もし切り替えのときに、そういう注意をきちんとしていただいて、ご理解いただいたうえで廃棄していただければなと思いました。
黒澤主幹	うちの方でも、その辺はやっぱりお話のとおりでして、DVDにまだなっていないものが多数ございます。それはやっぱりビデオテープとして残さない。簡単にDVDにできればいいんでしょうけど、それをするにはかなりな著作権料が発生するものですから。貸し出しする権利は買ってるんですが、複製権っていうのは買ってませんので。もし作品がDVDになっていけば問題なく廃棄はできるんですが。
佐山委員	機械が壊れてしまって、どうしようもないのよ。絡んでしまってますね。
佐藤(美)委員	10頁の①のDVD教材ベスト10のところ、何年か前にシニア大学で、綾小路きみまろのDVDを仙南視聴覚教材センターさんから借りて、皆さんに見ていただきました。皆さん、もう大声で笑い、会場は爆笑でした。今年度も運動とか災害とかいろいろ計画をしています。放映時間を聞きたいんですけども、『演歌で健康たいそう!』は何分ですか。
黒澤主幹	だいたい53分とか55分、43分。
佐藤(美)委員	それから、『もしも今地震が起きたら』これは何分ですか。
佐藤教育長	これは教材の一覧表みたいなのありますから。

佐藤(美)委員	シニア大学の人たちは、体を動かしたり、声を出したり、笑ったり、最高だと思っています。今年の計画の中で、いくつかのコマがまだ空欄なので、ぜひ活用して、笑って声を出して長生きしていただき、心身ともに健康に過ごしてほしいものです。ありがとうございます。
佐藤教育長	40,000人の利用者数が8,000人と、5分の1減ってるんです。これは教育長会議などでも4名の力で意見を出して、利活用を推進します。私は大人しくして。
黒澤主幹	今年度早めに購入しましたので、ちょっと利用的には昨年度よりは若干増えるかなとちょっとってはいるんですが、なお一層PRしていきたいというふうに思っております。
佐藤教育長	(視聴覚教材利用状況)これを見ると反省しなくちゃいけないなって自分たちの町見て思うんですけど。村田の高校で、利用する人数が増えてます。それから柴田は両方とも増えているんですが、どんな理由があると思われますか。
黒澤主幹	これは利用する団体さんが多くなったというか。
佐藤教育長	学校側ですか。学校が多い。
黒澤主幹	学校だけでもないんですが、町全体で利用されたということです。
佐藤教育長	16ミリからDVDにどんどん利用が移っているのですか。
黒澤主幹	そうですね、そっちに移ってます。
佐藤教育長	28年度の予算の中に、新しいプロジェクターを購入するという予定はあるんですか。
黒澤主幹	1台購入予定となっておりますので。これから選定して。
佐藤教育長	ここで宣伝ということで、この5人の教育委員がいますけども、教育長部会でも評議員としてもね、5人に各市町でPRしていただきたいと思いますので、その新しいプロジェクターの性能が分かりましたら教えてください。
黒澤主幹	いろんな新しいものって今考えているものですから、新しいものが出てから購入したいと考えてます。
佐藤教育長	明るくて暗幕を張らなくてもいい、照度の強いものですか。
黒澤主幹	だいたい4,000ルーメン以上のものをもってことで考えているので。こういう明るさでも見れる。
佐藤教育長	暗幕なしで使える性能の良いものに予算をつけてください。それでは異議ないものと認め、承認します。

### 報告第3号 平成27年度AZ9パスポート事業の利用状況について

黒澤主幹より資料1にてご説明申し上げます。他6圏域と相互でパスポートの利用ができる施設では2,959回(うちAZ9パスポート827回)の利用があり、相互利用以外の施設では3,870回の利用があった。蔵王町のB&G海洋センターの利用が前年度比で減少している原因は、アリーナ改装工事により、9月分の施設利用がなかったためである。

( 質 疑 )	
佐藤教育長	14%減った中には、工事とか他のなにかが原因ですか。
黒澤主幹	他のところはないんですが、やっぱりどうしても休みの日の利用ということで、休みの日にやっぱりこの施設ではなくて、他の事業だったり自分のスポーツ関係の方

黒澤主幹	に行っちゃったりとかってということで、利用がちょっと安定してないところがございいます。
佐藤教育長	それでは異議ないものと認め、承認します。

#### 報告第4号 平成27年度仙南芸術文化センター事業の実施状況について

若林主事、星井主事より事業の記録映像及び仙南芸術文化センター事業報告書（76～79頁）にてご説明申し上げます。住民が主体的に参加する地域文化創造事業では7,626名、仙南芸術文化センターが主催するワークショップでは2,027名、住民創造グループと共催で行ったワークショップでは1,506名、アウトリーチでは4,162名、住民が企画した公演等では2,983名、仙南芸術文化センターが主催する鑑賞事業では6,306名、東京都との共催する被災地支援事業では348名の参加があった。

( 質 疑 )	
川島委員	とても魅力的ないろんなグループの活動とかワークショップとかあるんですけども、これはよく回覧板でうちの方にも回ってくるんですが、ちょっと遠いせいか、白石なんかだとスルーしてしまって、この近くでこういうのをやってるっていうの知らない人もあるんじゃないかなという気がします。白石もそれなりにキューブやなんかを使ってはやってますけど、充実度というかな、わあ違うなと思いつながら今見せていただいております。でもこれ以上増えちゃだめなんですよ。
水戸教育次長	確かに、どうしても距離が遠い地域に住んでる皆さんは、なかなか足を運ぶことができない、あるいはよく情報も十分に伝わってないということは確かにあるかと思っております。それで、こちらからどんどんですね、事業をお届けするというのを積極的にやっております。ちなみに白石も昨年度13回、13か所に出かけていろんな事業を展開しております。ですので、学校であったり福祉施設といったところでは、割と認知度も上がってきてる状況はあるかなと思っております。ただし一般の公演について、今ご指摘のとおり、なかなか距離が遠くなってくると、来ていただける人が少なくなってくる傾向はどうしてもあるように思います。ですので、広報をこれからもっと充実させていきたいと思っております。特に今年度展開する20周年記念事業ではですね、最初のチラシのお知らせで、大きな事業だけではなくて、今いろいろご紹介した各アウトリーチなども、こんな地域でこんなふうやってますよという情報も合わせて載せようと思っております。仙南地域でもう何十か所もいろんなところでこのぐらいやってるんだねと視覚的に見えるようなチラシを作って、全戸配布しようとは考えておるところでございます。
佐山委員	いろんな社会教育的な活動を本当は角田にも引っ張りたい。だけどチラシだけ流したってやっぱりだめだということ、とにかくセールスに行き来みたいな形で、今は社会教育関係の職員たちにはお話ししてるんです。例えば角田広報流しますが、あれだってだめ。いろんな催し物を格好よく作ってあるんだけど、それを市民センターにただ立てかけてたってだめだということ、だいたい気づいてきたので、とにかくセールスに行くように。例えば地区の総会があったときに、ちょっとの時間でもいいからそこに行って、ちょっとだけ一声あげるというような形のをやってないと、住民たちはそういうものがあったとしてもそれを見ないんですね。もう当たり前になりすぎてるところがあるので。やっぱり新しい展開をするには、やっぱり古い方法ですが、それしかないのかなと思うので。え、こホールと一年やってみて、オープンの一応波は終わってね、来年からどう変化していくかというときに、やっ

佐山委員	<p>ぱり人集めに苦労してるみたいです。とにかく出てって、地区の何でもいいから、老人ホーム会でも何でもいいから、そこに行って、ちょっとでも話をする形で進めようかなと思って、今年はそれに切り替えてるんです。人集めっていうのは難しいんです。大河原は近くですぐパッと来れるでしょ。これはね、やっぱり強みだと思う。こういう、感性を育むようないろんな芸術関係のものをやってるっていうのは、私は大河原の小学校あたりの子どもの学力が良いっていうのも、この辺に由来すんじゃないのかなと思ってるんですよ。いろんな私の理屈もあるんだけど。ぜひとも素晴らしさに気づいていただいて、まあ何年かかるか分からないんだけど。学校教育ってのは、本当に知性的な教育を行ってるわけだから、感性的なもの、社会教育的なものでフォローしていくみたいな考え方を、親がそういうこと分かってくれるといいんだけど、なかなか広がっていかないんだ。とにかくスポーツの方で一生懸命やりましょうってことで安心している親がいっぱいいるんだよ。その辺のバランスのとれた子どもたちの育て方っていうのが。大河原は、実際に見えて近くでやってるから本当に良いんだろうけど、角田あたりはわざわざこっちまで来るとなると、どうしても保護者同伴の形で子どもたち連れて来なくちゃいけないという。角田にせっかく田園ホールができたので、えずこホールと、姉妹ホールじゃないけど、サテライト的にあちらを活用してもらいたいなあと思いつつも、敵わないと諦めてるところなんですけど。そういうところは、難しいと思うけど、何か機会があれば、そういう啓発とかなんかもお願いしたいな。うちの方でもやってますけどね。</p>
佐藤(美)委員	<p>今の佐山委員さんの言われる課題は我が町も同じかなと。やはり町の行事にいかにか人を集めるかっていうことが一番の課題で、結局ポスターとか貼っただけではだめ。やっぱり知ってる人に声かけて、何人かずつ連れてきてちょうだいっていうふうな、そういうことでもしていかないと、集まらないっていうか。一番それが難しいですよ。でも、来れば良かったと言って帰るんですよ。とっても良かったって。もう少し、自ら足が向くようになればいいなと思ってます。</p>
佐山委員	<p>一回経験すると、これまでのいろんな企画を見たりとか、リピーターが必ずできるようになるので、やっぱり最初は足で稼ぐしかないのかなと思って。でも一回来ればリピーターになるってのは、この中身を見てると自信はあるので。ぜひともお越しいただいて。</p>
川島委員	<p>えずこの素晴らしいところは、プロがいろんなワークショップや何でも、入り込んで、ここまでやれるよというのをぐっと子どもたちでも大人でも引き出してもらえるということです。白石の中央公民館なんかを見ても、ものすごくたくさんの数のグループが利用してて、なかなか場所をとるのが大変なくらい利用されてるんですけど、文化祭とか中央公民館まつりに行ってみると、カラオケグループや民謡グループなど、要するに自分たちだけでやってるグループだけの参加に止まっちゃっている。でもそれもほとんど女の人。老年の女の人たちが大部分で、あれだけ利用してるってのは素晴らしいと思うものの、もう一歩上のものを観たいなという人がどこに行ってるのかなと思うと、仙台にわざわざ行ってる。実はここの近くにこういうのがあるというのを、もうちょっとなんかで白石も広められると、仙台までわざわざ行かなくても、ここでもずいぶんレベルの高いものがある。やりたいなと思ったらやれるんだよというのを改めて感じました。</p>
佐山委員	<p>でも本当に一級品を揃えててもらってること自体が本当にありがたいですよ。本当に我々は、カラオケグループレベルで喜んでるぐらいの地域がいっぱいあるんです</p>

佐山委員	<p>けども、やっぱりそういう人たちも、こういう、それこそレベルの高いものを一回でも味わせるとか。私は子どもたちにそれを早く気付いてほしいなという、学校もアウトリーチをしていただいで非常にありがたいと思うんですよ。学校ではやれないですからね。</p>
水戸教育次長	<p>統計的な数字としてですね、若いときにそういう文化芸術体験をある程度した子どもたちとそうでない子どもたちとでは、成人して以降の行動が結構違うという話がございます。成人以降にこういう文化芸術体験をしようと思っても、なかなかハードルが高いということもよく言われています。ですので、このアウトリーチをやっている意味ってのはまずそこにあるんですけども、若いうちにそういう深い、あるいは質の高い文化芸術体験をたくさんしていただくことによって、地域の人の生き方が変わっていくのではないかとひとつ考えております。さらにもうひとつ、深い部分でいうと、社会包摂、ソーシャルインクルージョンを一番しております。皆さんご存知かと思うんですけども、ソーシャルインクルージョンというのは、社会の中には老若男女、障害を持つ、持たない、あるいはいろんな人種、いろんな方がお住まいでいらっしゃいます。そういう全ての人にアクセスしていく、あるいはそういう全ての人アクセスできる条件を整えていくっていうのがソーシャルインクルージョンの基本的な考え方です。最近、それに取り組んでいる文化施設も増えてきています。劇場法の中にも直接ではないんですけども、劇場法の3条の8号にですね、共生社会に資する事業をやりなさいという一文があります。翌年出された文科大臣の指針の中にはっきり書かれています。文化芸術をただ提供するのではなくて、そのことによって、人と地域が活性化していくような社会包摂機能を持った事業を展開しなさいと。あるいは地域のコミュニティの核施設として、皆さんが集まって文化を通して地域を活性化するような仕事をしなさいということが、実は大臣指針の中に書かれています。ということで、ここ2、3年なんですけど、そういう動きがぼちぼち出てきております。ということで、えずこホールの場合は、数字、今ご説明申し上げましたけれども、鑑賞事業と参加体験型の事業を比率で計算しますと、参加体験型の事業の方が3倍強になってます。ということは、鑑賞に来ていただく人たちが1に対して、3倍以上の人たちがこういう事業に参加しているということです。それは文化芸術を通して楽しい時間を過ごす、深い感動体験をするというだけではなくて、人が活性化して、そのことによって地域が活性化して行くということを基本的に考えてございます。そしてそのベースになる考え方が先ほど申した、社会包摂の考え方ですので、特に福祉施設が25か所と、かなりたくさん回ってるんですけど、福祉施設であつたりお年寄りの施設こそ、ここに来れないんですよ。もうこれはこちらから行くしかないの、そういう事業もたくさん展開をしていくこととございます。最終的にはこういった事業が積み重なって、この地域が変わっていくということイメージしてやっているつもりでございます。その辺のところは、実は報告書のごあいさつのところに少し書かせていただきましたので、後ほどお読みいただければ幸いです。</p>
佐藤教育長	<p>広報誌など、どの市町でも分厚く出しても、すぐにごみにポイ捨てになったり、苦勞が結構出ています。一番大切なのは、やっぱり読んでもらう人にどのようにキャッチしてもらうかということです。一枚ものみたいなものでも、ハッと思うようなデザインだとか、そのちょっとした工夫で形が違ふとかね、なんか読みたいと引きつける工夫があると良いと思います。これについては今後も課題意識を持って取り組んでいきたい。今回20周年のコンセプトがここで生まれたんじゃないかなと思</p>



佐藤教育長	うくらい素晴らしい良い意見になっております。 それでは異議のないものと認め、決定いたします。
-------	---

### 報告第5号 平成27年度仙南芸術文化センターの利用状況について

星井主事より仙南芸術文化センター事業報告書（4～5頁）にてご説明申し上げます。308日の開館日数のうち、全ての日において施設の利用があったため、稼働率は100%であった。施設全体での使用人数は86,520人（1,138団体）であり、昨年度より大きく集計が増えた要因は、集計の取り方を施設の利用人数をより厳密にしたためである。地域別では大河原町を始めとして圏域内の団体の利用が多く、団体種別としてはレッスン等で使用する文化団体、次いで研修等で使用する会社が多かった。

( 質 疑 )	
佐藤教育長	26年度と27年度の人数比べてみると、20,000人ぐらい増加してるんですね。そうしますと、部屋をこっち使って向こう行って使えば、これ2人ってカウントするということですね。それもあるんでしょうけども、自然増といいますか、それをしなくても増えてるってということもあると思います。そのためだけに20,000人増えたってわけではないんですね。
星井主事	そうですね、大ホールでご覧いただくと分かりますが、大ホール43,219名で27年度で48,708名で、約5,000人ぐらい増えてます。
佐藤教育長	それでは異議のないものと認め、決定いたします。

### 報告第6号 平成28年4月から同年5月までの主な事業等の経過について

教育委員会事業については黒澤主幹より、仙南芸術文化センター事業については水戸教育次長より資料2にてご説明申し上げます。

( 質 疑 )	
	< 質疑なし >
佐藤教育長	それでは異議ないものと認め、決定いたします。

## 9. 議事

### 議案第1号 仙南地域広域行政事務組合教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点検及び評価の実施について

水戸教育次長より別紙資料3にてご説明申し上げます。今年度は柴田町の大脇賢次氏、丸森町の鈴木悦郎氏の2名に教育行政点検評価員を委嘱し、8月に会議を開催する予定である。報告書については、各事業の成果や事務局内部での課題について読み上げた。

( 質 疑 )	
佐山委員	アウトリーチとかなんかで、学校が受け入れるときに何で時数をカウントしてるのかっていうことを調べているのでしょうか、それともまだですか。
水戸教育次長	ひとつひとつまでは確認してないので、今後確認してみたいと思います。
佐山委員	結局それがわかっていると、各学校で呼びやすくなるんだ。こういうふうにかウントしてんだ、じゃあうちの方もこれでできるなっての、学校として非常に受け入れやすくなるので、非常に面倒くさいのは授業数なんだよね、何でカウントしてるか。それひとつひとつあれば参考になると思いますので。

水戸教育次長	ひとつひとつまでは確認してないのですが、例えばクラシックのアーティスト連れていくときは、音楽の授業で音楽の鑑賞であったり、体験というところに当てはめていただいているようです。それからダンスについては、体育の授業の中に当て込んでいます。それから演劇系のものについては、総合学習の時間かあるいは国語の表現のところにうまく当てはめて時間を調整していただいているケースがございます。
佐山委員	予測できるのは意外といいんだけども、そういうふうに合わせてやって工夫してるっていう学校もあるかもしれないので、参考にするためには。
水戸教育次長	いずれも先生にお願いしてご説明してるのは、学校のカリキュラムの中に、我々が入って行って、先生と一緒に授業を作るという、あくまでも外部からのゲストティーチャーということで、全く関係ないプログラムを持っていくのではなくて、学校の授業の中で学校の先生と一緒に作りましょうというようなご説明をしばしばさせてはいただいておりますので、その辺学校側の受け入れでちょっといろいろ工夫していただくためにいろんな枠を使っただけならばなあと思っております。
佐藤(美)委員	これまでの説明で、よく分かりました。すごく良かったと思います。
佐藤教育長	それでは、その学校の体験をどう組み込んだかについては、サンプルでいいと思うんですが、面白いのがあれば。全て出張するのは大変ですので、2つでも3つでもサンプルで報告していただければと思います。 それでは異議ないものと認め、この内容で実施いたします。

#### 10. 次回教育委員会定例会の日程について

佐藤教育長	それではこのとおり、平成28年9月26日午前10時ということで、次回の定例会を実施いたします。
-------	---

#### 11. その他

##### ○ 平成27年度仙南地域広域行政事務組合教育費決算について

水戸教育次長より別紙資料4にてご説明申し上げます。

( 質 疑 )	<質疑なし>
---------	--------

##### ○ 平成27年度仙南地域広域行政事務組合仙南芸術文化センター特別会計決算について

水戸教育次長より別紙資料5にてご説明申し上げます。

( 質 疑 )	<質疑なし>
---------	--------

12. 閉 会 午前17時10分

上記の会議の顛末を記録し、その内容が真正であることを証するためにここに署名する。

平成28年6月21日

教 育 長

署名委員